

外科医が教える必須解剖学

科目責任者：磯 幸 博（第二外科）

I. 前 文

現役外科医が手術をする視点からの解剖学を実際の手術ビデオや術中写真などを教材として使用し、対話を主体としたライブ形式の授業の中で学生の知的好奇心を増大させていきます。さらに、机上のテキストや一般的な教科書学習から離れ、学生と教員の視線を合わせ実際の外科の仕事現場で使っている腹腔内解剖の要点を臨場感たっぷりに導くことで、あふれ出した好奇心を昇華させ高吸収することが可能となり、外科医の基礎である解剖学の効率の良い学習が可能となります。また、実臨床での外科解剖は発生学や病態生理への理解も必要でありそれらを切り離すことは困難なので、発生学に基づく解剖の知識や病態生理の解剖学的根拠などについても教授し縦割りの通常授業では取得しえない、解剖、発生、外科治療との繋がりを体感しその深い知識こそが外科治療の基礎であることを実感していただきます。

II. 受入可能人数

制限しません。たくさんの学生に参加して頂きたいです。国家試験に役立つことも保証します。

III. 担当教員

磯 幸 博, 櫻 岡 佑 樹, 他

IV. 学習内容

講義では教科書や一般教材は使用しません。外科医が実際の手術標本の写真や術中写真を基にしたオリジナルの教材を使用し、手術ビデオ、切除標本、術中写真などを供覧しながら、まさに外科医の目線からみた、解剖学を臨場感満載に展開していきます。授業中に提示する国家試験問題で内容把握の確認を行い、さらなる質疑応答や議論を通じて学生の知的好奇心が強固な知識に変換された時点で講義を終了とします。

V. 学修の到達目標

外科医が教える必須解剖学に参加し、医師国家試験に合格することが出来る。

VI. 成績評価の方法・基準

受講学生の最終成績は、科目責任者から教務課に100点満点の点数を提出していただきます。

講義中に行う国家試験問題で可否を判定します。合格者には、素敵な特典があるかもしれません。

VII. 使用する教材・資料など

講義では教科書や教材は使用しません。外科医が実際の手術標本の写真や術中写真を基にしたオリジナルのプリントや書き込みシートを随時配布します。また実際の手術動画などを供覧しながら、まさに外科医の目線からみた、解剖学を臨場感満載に展開していきます。

VIII. 質問への対応方法

質問いつでもどこでもOKです（PHS：7545、メール：karinaiso@yahoo.co.jp）。また講義中でも直接でもOKです。

IX. 求められる事前学習、事後学習

事前学習は特に必要ありません。事後学習として、講義内容を10分程度復習してください。学力や学業成績は不問です。外科や解剖に興味がある、または国家試験に合格したい全ての学生の参加をお待ちしております。

X. コアカリ記号・番号

D-7：消化器系

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

試験やレポートはありません。講義内での課題について、都度質問に答えフィードバックします。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

四
学
年